HAKUKOUKAI

社会福祉法人　薄光会　広報紙

きらめき

三芳光陽園から見えた夕焼け空

第20号

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。
http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/
各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成２１年１０月３１日
社会福祉法人　薄光会　広報委員会発行

本部、太陽のしずく
ケアホームCOCO：〒299-1607 千葉県富津市湊 1070-3　TEL 0439-67-3711
豊岡光生園：〒299-1742 千葉県富津市豊岡３５３５－1　0439-68-1711
三芳光陽園：〒294-0825 千葉県南房総市上堀 280　0470-36-3211
鴨川ひかり学園：〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297　04-7099-3311
湊ひかり学園：〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18　0439-70-6551

風と語ろう

～ 人影が消え　獣が横行する ～

いつもの年と何か違う。五月から八月の中頃にかけて訃報の知らせが非常に多かった。四ヶ月の間に立て続けに十一もの葬儀に参列する事となってしまった。五十歳代から八十歳代の親族、友人、知人、職場関係の人たちであった。それぞれ脳血管疾患、糖尿病、癌などの病気が原因となっていた。自分の周りからこの勢いで、人が居なくなると思うと怖くなってしまう。

四月に職員の結婚式が行われた。その席上で二人の門出を祝い「六十億分の一の出会い」をテーマにしてスピーチを述べた。式の数日前に車のラジオから流れる曲「六十億分の一、奇跡」だったと思うが、その曲の詩をヒントにさせてもらった。内容は、世界人口六十億人の中で一人の人との出会い、と記憶している。

実際のところ、挙式当日の世界人口は六十七億七千万人であった。その曲は、今になって計算してみると九年前の作品と言うことになる。世界人口は一日に二十万人増えており、八月現在、六十八億一千万人（平成二十一年八月十二日）を数える。人口爆発と言われるように、ものすごい勢いで増えている。

しかし、それは全世界でのことであり、増え続けているのは他の国の事で、日本は逆に人が減ってきている。現在、日本の人口は、一億二七七七万人である。毎日、二九七五人が生まれ、二九九二人が何らかの原因で亡くなる。一日十七人ずつ減り、一年に六二〇〇人も減っているのだ。（平成十八年　総務省）。

ある日のこと、朝早くからわが家の犬がしきりに吼えている。外に出て庭の木の上を見ると野生の猿が群れをなし、人の気配に気づいたのかガサガサとすばやく逃げていく。すると逃げ遅れたのか子猿が一匹、大切そうに両手で包むように持っている物は、我が家で大事にしているソルダムの木の実（梅科　：プラムのような実で中は赤紫色）であった。

人の姿に臆するでもなく、悪気もなく「おばちゃん、ソルダムだけど、何か」と言わんばかりに、ちっちゃな子猿が見下ろしていた、と家内が木の上を見て悔しがっている。それもそのはず、「食べ頃のようだから、明日にでも採ろうか」と前日の晩に話しをしたばかりだったのだ。子猿は主婦の怒りをかったまま姿をくらました。

野生の猿や猪が、山間部から民家の密集する地域にまで出没してくる。ここ二年位前から始まりだした。

国の農林水産物の鳥獣被害は、年間五十億円にもなり、鳥獣被害防止特別措置法（平成二十年二月二十一日施行）までできた。どうして、民家の畑や田んぼにまで猪がやってきて農作物を荒らすかと言うと、外国木材の利用により国内の林業が衰退し、山林の伐採や整備などがされず、人が里の近くの山に足を踏み入れなくなったことに原因があるらしい。

人の出入りのない山は人の臭いがしない。すると、臭いのしない山は、猪にとって怖くない場所となり、民家の近くに現れ、田畑を荒らすと言うことである。また、年に二回の繁殖期を持ち、その数をどんどん増やし、被害を拡大させている。

さて、地方では猪が増え、世界では人が増え、そして、日本では、人が減っている。この現実に、どう対応して行くかは、国の政策にかかっているのだ。この現在の日本の人口を維持していくことが最大の目標であるならば、一日十七人の減少をとめることである。しかし、それは大変に難しいことであろう。

このままであれば、一〇〇年後には、日本人口は五千万人を割ってしまうと言われている。江戸時代より少し多い人口となるくらいだ。そうなると、加速度的に地方の過疎化は進み、村落から人影は消え、獣が横行すると言う未来社会が待っているのである。

湊ひかり学園施設長　岡田和夫

鴨川ひかり学園

ひかり通信

今年の夏は梅雨がずれ込み、いつもより夏が短く感じます。そう感じるのは、四十路を過ぎた年齢のせいだけではないと思います。地球温暖化の影響による天候不順もあるのでしょう・・・などと難しい話ではなく、私自身この短かった夏を振り返り、心に残るエピソードを幾つか紹介したいと思います。

『お手伝い、ありがたい?』

昨年は都合により夏祭りが中止となり、今年は例年以上に楽しみにしている方も多く、遠足が終わってからすぐに「もうすぐ夏祭りだ」と首を長くして待っているなんて気の早すぎる人もいるくらいです。(五月の遠足の時に首は既に伸び切っているはずですがね…)準備は天気と睨めっこでしたが、当日は絶好の夏祭り日和。冷たい飲み物が足りなくなるハプニングもありましたが無事盛会の内に終了しました。さて楽しく遊んだ後は使ったものを片づけるという、小さい子供でも分かる大きな作業が待っています。業務中、また終了後に職員が手分けして行います。その片づけを楽しみにしている方が、イニシャルでKさんとでもしておきましょう。

施設長が「誰か片づけを手伝ってくれる人?」と…半分真顔で「まさかいないよな」という表情を作りながら声を掛けると、Kさんの手が挙がります。彼は暑い中、しかも一生懸命に提灯や電球の片付けを黙々とこなしていきます。その頑張りに、職員室から「冷たい物でもどーぞ」との有難い天使の様な優しい言葉が届けられました。汗をかいた顔に満面の笑みがこぼれます。「イヤー、Kさん、今日はありがとう。また明日お願いします。」するとKさんは、にっこり笑って「明日もジュース飲む」と言いながら、施設長と二人で缶コーヒーを飲みました。

『プールでの挑戦状』

天候不順な夏であり、予定されていた海水浴も台風の影響で中止となりました。ですが今年もくたびれ果てたプールが、暑い日には大活躍しています。石鹸とシャンプーを手桶に入れ、喜び勇んで銭湯へ行くような出で立ちでプールへ向かいます。手桶はプールに入っている方に水を掛ける為に使います。

水を掛けられ、キャーキャー悲鳴を上げながらも嬉しそうにしている利用者たちです。

「さて、今度は誰に掛けようかな」と辺りを見回し、ターゲットにロック・オン!

毎年悲鳴を上げながら、グラウンドの隅から隅へと逃げ回るあの人にです。眉毛を左右互い違いにして「ウギャオー」と叫びながら逃げ回る。「覚悟せいー」と追いかける。「アギャー」と叫びながら逃げ切った。その後、プールに浸かり「ホッ」と一息(油断とも言うが)ついた所へ、頭にバシャッと水が掛けられた。「誰だー!」「ヒャー」と歓声を張り上げて逃げて行く後ろ姿は、紛れもなく『彼だ』「やられっ放しにはならないぞ」とばかりに反撃に出たが、あっけなく手足を掴まれプールの中にブクブク・・・プハー。

イヤー、プールはやっぱり楽しいですなぁ。若者も中年も女性も、楽しい夏の思い出ができました。

(中川)

湊ひかり学園

学園新聞

これから登場するけいじさんは、キレイな音がする物が大好きで、いつもお菓子の缶やキンチョールなどの缶を持って指先でカンカン！しています。微妙な音のタッチの違いがわかるけいじさんは、きれいな音のためならキンチョールの量も調整しちゃいます。

そんなけいじさんの様子をご覧下さい。

①オレは缶が好きだ！

②みんなは粘土‥
でも、オレは缶！

③みんなはビーズ‥‥
でも、オレは缶！

④しかたねえなあ‥‥
やってみるか！

⑤ところで‥‥
太めの体を気にしてるんだけど、
ついつい食べ過ぎちゃうんだ

＊まだまだ続くよ！

楽しみなのはどっち？

「今日、プールできる？」

リュックを背負い、プールバックを手に持って、「おはよう」の挨拶より先に元気な声で送迎車に乗り込んで来る。湊ひかり学園児童デイサービスの夏は、みんなの大好きなプールが一番の活動です。

太陽の日差しを浴びて真っ黒に日焼けした体に水しぶきと共に楽しそうな笑い声が響く・・・

一つのプールには、水鉄砲を片手にゴーグルをキメたけいちゃん。（お願い！　職員の顔だけには水は掛けないで！　眉毛消えちゃうから・・）

もう一つのプールには、まるでお風呂の湯船に浸かってるかの様にマイペースで静かに入ってるこうちゃん。（え？　あ！　こらこら、芝をむしって入れないで！　プールが芝だらけになっちゃうよ！）

そして、大きなビニールプールには、一番浅く水を張ってリラックスして入っている車椅子のゆいちゃん。

それぞれのプールの周りでは、みんなを見守りながら、職員も一緒に水遊びを盛り上げています。

（実はね、職員が一番楽しんじゃってるんだよ。きっと！）

⑥動かなきゃ！
ハイ、ちからしごと!!

⑦お腹すいたなぁ！
あ～ぁ、ラーメン食べたい‥‥

おっと、楽しい時間は、あっという間に過ぎてしまうね。そろそろプールから上がらないと。えーと、荷物を間違えない様にね、洋服を後ろ前に着ないでね。ねえねえ、自分で出来る事はちゃんとやってみようよ。

着替えを済ませ、ホッと一息といきたいところだけど、もう昼食準備の時間だ！　ほんとうはみんな、この時間が何よりも一番楽しみにしているのかな？家族の方が作って下さった愛情たっぷりのお弁当だもんね。

「いっただきまぁーす」

プールで遊んでいる時の笑顔、お弁当を食べている時の笑顔、どの笑顔もぜーんぶ！

ひ・か・り・輝いているよ。

（糸日谷）

【職員紹介】

今年度より生活支援員として勤務している３名です。（①所属事業所、②ひとこと）

金子　裕美

① 生活介護事業所
② よろしくお願いします。

佐久間　実

① 生活介護事業所
② 日々、めぐり愛、ふれ愛を感じる職場です。よろしくお願い致します。

渡邉　幸広

① 地域活動支援センター
② まだまだ未熟ですが、精一杯やりますのでよろしくお願いします。

三芳光陽園

光陽

『毎年ありがとうございます』

九月十六日、今年も三平商会様（「地球にスマイル基金」）よりアルミ製車いす一台の寄贈を受けました。毎年、本当にありがとうございます。

施設入所者五十五人中、約半数の方が、何らかの形で車いすを利用しないと移動できないのが現状です。

今後、車いすを利用する入所者が、更に増えていくことが予測されるところ、毎年声をかけていただき、ただ、ただ、感謝の一言です。心より御礼申し上げます。今後もお付き合いのほど、よろしくお願いいたします。

『ふと思うことがあって・・・』

ふと思うことがあって、
施設の周りを歩いてから帰ることにした。
ここで血糖値が一番高いのは自分らしい。
これは、まずいと今更ながらに思っただけのことだけど。

五時三〇分を過ぎるころから施設の門を出て歩き始める。
きれいな夕焼けが一緒に歩いてくれた。

歩いていると色々な人に声をかけられた。
なぜか、みんな後ろから。
そんなに後ろからの方がわかりやすいのだろうか？

「何かあった？　誰かいなくなったの？」
車で通り過ぎた後、わざわざ引き返してきて聞いていく人もいた。訳を話すと、皆さん笑顔で手を振っていってくれる。

この施設に異動して丸五年が経ち、自分の顔（もしかしたら後ろ姿かもしれないけれど）を覚えてくれた方々が多くなったことや、施設のことを気にかけてくださっていることをありがたく思う。

「もう少し早く始めればよかったかな？」
などと考えながら、歩き続ける。

暗くなる前に園まで着かないと、今度は、不審者に間違われてしまうかもしれない。

神谷　亨

豊岡光生園

園だより

ＪＯＢチーム『開拓隊』に贈る

ＪＯＢチーム『開拓隊』の皆さん。

ぼくたちは、皆さんがとても大切な、とても大きな「しごと」をしていることに、気づかなければならないと思っています。

不遜にも、「ふつう」という名の幻想の中に生きるぼくたちは、皆さんに出会うと、何もできない人達、お世話しなければならない人達、介護の負担が大きい人達と、すぐに決め付けてしまいがちです。

でも、そうでしょうか。

傲慢にも、肥大化した自我を持て余すぼくたちは、皆さんと表面的な比較において、自分の幸せを語ったり、自分の怠惰を反省したりしています。

それは良いことなのでしょうか？

詩人は、印刷物を生産しているわけではありません。詩人は、生きとし生けるものが形づくるこの世界で、自分の体内にスパークして宿った価値意識の塊を、自分では止められない生の衝動を持って、自分の流儀で外界世界に解き放ちます。

解き放たれた価値意識は、世の中の価値意識とせめぎあって、この世界を変えていく力になります。

皆さんは、生きていく、ただそれだけで、この世界の価値意識を変えているのです。こんなにも、ぼくたちの人権意識が深くなったり、やさしく微笑むことができたり、助け合ったり、支えあったりできる心根を獲得できるのも、皆さんがいるからだと、つくづく思います。それは、皆さんの力です。

だから、もっともっと多くの人々と出会い、関わってください。

そういう意味で、皆さんは、「開拓者」なのだと思います。どうです？　皆さんを取り巻く世界もずいぶん変わりました。でも、皆さんと関わった人たちの努力だけで変わったとは思いません。皆さんの声無き声、生きている姿そのままのメッセージの賜物だと思うのです。皆さんに接する人々は、ぼくたち自身も含めて次第次第に他者に対する心根が深くなっていきます。

皆さん、ぼくたちは、皆さんのそういう力を、ぼくたち自身も、もらいながら、多くの人たちに伝えていきたいと思っています。これからも、「共に生きる」という意味、自分たち総ての人々が「生かされている」という意味を、教え続けてください。

（Ｔ）

ＪＯＢチーム　っうしん

【はたらく＝傍楽】

鴨川オーシャンパーク　①（夏空の日）

今日は開拓隊のおしごとで訪れた。漁民公園の片隅に足湯があり、突然、

「今日はレディースデーです。足湯に女性の方のみどうぞ！」

と、職員　水野の勝手なルールの声が響く。オーシャンパーク内の片隅には五、六人程は入れる足湯があった。

「可子さんレディースデーだってよ。」

職員に促されながら渋々足をつける可子さん。自分の気に入らない物は頑固一徹に受け入れない可子さんが、足湯から急に飛び出して走り出さないか見守る職員。その瞬間、両足をポーンと上に上げ水しぶきが飛ぶと共に満面の笑み。今年六月から入ったばかりの職員が、

「ワアーこんな可子さんの笑顔見たの初めて！」

可子さん余程気持良いのか、手拍子に歌まで飛び出す。可子さんの今日のおしごとは周りの心を和ませてくれた。

女性陣だけ盛り上がっている片隅でレディースデーでありながらも庄司達雄さんと男性職員杉山が仲良く足湯に浸かっていた。

（ん～　ＯＫＡＭＡ？）。

（水野）

太陽のしずく

「はたらく＝傍楽」

――傍の人に「楽」をもたらす――

その電話は、皆と一しごとを終えて、『しずく』に戻ってきて間もなくに鳴った。受話器をとった加藤千晶は、「…なにか、しくじりをしたかなぁ…」と、今日一日のできごとを振り返った。

＊　＊　＊

富津市役所の市庁舎周囲の花壇の草取りなどのしごと（職場実習）をお願いして、管財課の協力を得て、その一部をさせていただくことになったのだった。自信はあった。一年間の和光保育園での職場実習の経験は、たくさんの「気づき」や「まなび」という豊かな収穫物を利用者たちにもたらし、その中で、彼ら「しごと人」たちは、生きていく力を伸ばしてきたからだった。

市庁舎の建つ敷地は広い。駐車場を囲む花壇に水を撒いたり、落ち葉を集めたり、草取りをしたりする。

初日のみなぎる緊張感、そして、二日目に草取りをしたときの「どれが草花でどれが取って良い雑草か」と、必死になって確認する姿は、身につけた力が本物なのだということを証明していた。和光保育園で経験した「貴重な失敗」が肥やしになり、彼らの根っこが深くなったのだ。

「おしごと」をするときの市役所の担当は、森さんという方である。温厚な方で、なにくれとなく段取りをしてくれて、実に細やかに気配りをし、世話をやいてくれる。なんの隔ても作らない森さんの人柄に、皆、いっぺんで馴染んでしまったのである。順調なすべり出しだった。あちこちから「こんなに出来るなんてすごいですね」と声もかけられた。

＊　＊　＊

受話器をとった加藤千晶は、森さんの次の言葉を少しドキドキしながら待った。語りだした森さんの口調はやさしく、熱かった。

「今日、最後に吉野幸子さんが俺に話してきたこと、聞いたかい？　幸ちゃんなぁ、自分に言ったんだよ。『私はこのしごとが好きです。また、やらせてください。』ってな。俺、うれしくなっちゃって、こりゃぁ、報告しなくちゃって思って、電話したんだよ」

加藤千晶もうれしくなって、自分たちが目指すものが、これまでの枠組みを突き抜けて、新しい道筋をつけるものだということを確信したのだった。

吉野幸子さんたちが希望を感じ、森さんが幸子さんの言葉に報われ、加藤千晶はじめ私たち皆が森さんの言葉に感激する。そして、はたらく皆の姿を見て、来庁する人たちが微笑んで声をかけてくれる。私たちは改めて「はたらく＝傍楽」ということを噛みしめたのだった。

（鳥居）

ファインダー

真っ赤なTシャツがだれよりも似合う。ツンツンヘアーが今日もばっちり決まっている浜崎さん。

今日はカメラを持ってきて、カシャ・カシャと帰りの車を待つ背を撮り始めました。その姿は一流カメラマン。かっこいい・・・

浜崎さんが私の方へ来たぞ。「やった！　私もとってくれるの？　ドキドキ、なんだか照れちゃうな…」　と思いきや…　私の手を引いて奈々ちゃんの所まで来ると、

「僕と奈々ちゃんのツーショットを撮って」と、私にカメラを渡しました。

な～んだ、浜崎さんそりゃないよ…　とがっくり。でも二人の写真はバッチリ撮れているよ。二人の笑顔がとてもほほえましく、私まで幸せな気持ちになれました。ありがとう。

今度は是非、浜崎さんと私のツーショット写真を撮ってね。伸一さん！

（小原）

COCO de ここ

勤務の都合で、事務の仕事を早めに切り上げて、臨時で一ヶ月ほどケアホームの送迎をした。

額の汗をぬぐう仕草をしながら、

「はー、…かれたー」と仕事で頑張ったことをアピールする広田さんや、前にゆっくり走る車がいると後ろの席から身を乗り出して、（抜かしちゃいなさいよ！）と言わんばかりに指をさす大多和さん。

自分は見たことがなかった普段とは少し違う利用者の何気ない姿と車の中で接することができて楽しかった。

あるとき、パトカーとすれ違った。

「ねえパトカーに広田君を逮捕してもらう？」光生園の時から広田さんと衝突することが多かった大多和さんに冗談でそう聞いてみた。意外にも大多和さんは首を横に振った。「いつもちょっかい出されて、嫌がっているじゃない、逮捕してもらわなくていいの？」何度聞いても大多和さんは首を横に振り続けた。仲が悪いと思い込んでいて、当然「うん」と頷くのではと思っていた私には驚きだった。

ホームで家族のように過ごしている間に、ケンカしながらも、光生園のときとはまた一味違う仲間意識のようなものが生まれたのかなと感じた。

（横尾）

カラス軍団の襲来

まだ眠りの中にいる暁の静寂な空気をつんざくように、ケアホームＭＯＭＯのほうから激しくドラムを叩く音が鳴り響いた。カラスの勘三郎率いるカラス軍団一個中隊が、ＭＯＭＯの屋根で軍事教練の行進を行うリズミカルな音だった。カラス世界で国境紛争か何かが起きて緊張が高まっているらしい。

こういう情勢の時に、いつも被害に遭うのは、そこに住む住民である。ＭＯＭＯの住民たちも、このところ寝不足が続いていた。毎朝四時半頃からカラスの軍靴の音で眠りを破られている。

このままでは生活が脅かされると判断したケアホーム政府は、防衛会議を招集し、対抗策を打ち出した。もちろん、平和憲法の下、専守防衛の中の対抗策でなくてはならない。文字通り、防衛網を張り巡らすべく、使わなくなった海苔の養殖用の網を、片流れの折板の屋根全部に覆うことにした。

この防衛網整備に光生園から、福島、水野の特別派遣隊員がやってきた。何も支えがない二階建ての屋根の上で、カラス空軍の攻撃を警戒しながらの作業である。案の定、福島隊員の肩越しに威力偵察を敢行したカラスが掠め飛んだ。カラス軍本体は、ＭＯＭＯの周囲の雑木林に陣を敷き、不気味な包囲網を作りつつある。その時、カラスの勘三郎の鋭い鳴き声が木魂した。「カァオー、カァー」

カラスの勘三郎率いるカラス軍団と対峙して六時間。われわれの防衛網がどのようなものか計りかねてか、カラス軍は動く気配がない。作業が一応の完成を見る頃、日没となった。カラスの軍略には夜襲は無い。カラス軍は陣を払った。

翌朝、ＭＯＭＯの周囲を旋回する黒い飛影が二つ。屋根めがけて二度、強襲を仕掛けてきた。

「カッツン。ゴトン。」

だが、攻撃はそれだけだった。屋根を覆う網に足を引っ掛けて、そのままミイラになるか、とんびの餌食になるのを恐れたのだろう、遠巻きに悔しそうに眺めているのである。防衛会議は勝利を宣言した。ＭＯＭＯに平和な朝が戻った・・・かに見えた。

だが、ハリウッドのパターン化されたホラー映画よろしく、近くの大きな数本の木に集結し、攻撃の糸口をつかもうとするカラスの勘三郎指揮下のカラス軍がその数を日々増やしているのを、ＭＯＭＯの住人たちは、まだ気づいてはいないのだった。

「ア　カァァァア」

「ぎえぇーぇぇぇっ」

（ツー　ビー　コンティニュード）　鳥居

【編集後記】 障害関係事業所が新法（？）に移行して半年。おかげさまで、順調に歩んでおります。政権が交代して、法改正のときが、またやってきますが、徒に振り回されず、理念やビジョンをしっかり持って、「夢や思いは、適えるもの」という精神で、利用者と共に未来を切り開きたいと思います。（H）